

自給飼料を活用した一群管理TMR給与技術

フリーストール飼養方式における搾乳牛の管理では、どのような群に分類して管理を行うのが合理的なのかを十分に検討して群分けすることが重要です。群分けによる利点は、それぞれの状態に応じた飼料給与、乳牛管理が容易になることですが、群わけや飼料の調整・給与が大きな負担になります。そのため、飼養頭数規模が少ない経営では一群管理が行われている場合が多く、栄養の過不足による様々な問題が発生しています。そこで、これらの問題を解消するため、一群管理による自給飼料を活用したTMR給与技術を検討しました。

☆ 技術の概要

1. TDN73%、CP15%、乾物摂取量 20kg を基準に設計し、乾物摂取量が 20kg を超える分は自給飼料分を増量して混合飼料（TMR）を調製給与すれば、泌乳成績も良好で、分娩後日数や泌乳量の異なる牛群を一群管理することができました。
2. 乾物摂取量は、分娩後日数、体重、乳量、乳脂肪率から推定（日本飼養標準 2006 年版推定式より）した値より多く摂取させることができました。
3. 乳脂肪率は全期間を通じて高い値を示し、その他の成分値からみて、濃厚飼料の過不足、エネルギーやタンパク質のバランス等についての問題はありませんでした。
4. 体重やBCSについては、一部の個体で泌乳後期に脂肪が付きましたが、分娩後の極端な痩せすぎの牛もなく、概ね良好にコントロールすることができました。



写真1 TMR 調製(左) 採食状況(中) 供試牛の体型(右)

☆ 活用面での留意点

平均産次 3.3 産、ピーク乳量約 48kg の牛群（11～20 頭）を用いて、7 ヶ月間飼養して得られた結果で、牛の状態、飼料の品質及び嗜好性、気候により乾物摂取量が大きく変動するので注意して観察し、給与量（あるいは各飼料の調製割合）の加減を行う必要があります。詳細は、佐賀県畜産試験場・大家畜研究担当 河野 宏(TEL: 0954-45-2030)にお問い合わせください。

(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)